

Society 5.0 推進利用 審査基準

※網がけはプレ審査時の対象項目

(1) S5 枠の趣旨等との整合性は取れているか

- ・ Society 5.0 の実現に資する成果を、富岳を用いることで早期に創出することが期待できること。
- ・ Society 5.0 を担う潜在的なスパコンユーザーへの利用拡大につながること。
- ・ 以下に示した対象とする研究課題と整合性がとれていること。 等
 - ・ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、Society 5.0 の実現を目指す課題。
 - ・ 政府の戦略において、重点分野として位置づけられている取組を重視する。（例えば AI 戦略では ①健康・医療・介護、②農業、③国土強靱化、④交通インフラ・物流、⑤地方創生（スマートシティ）が重点分野とされている。）
 - ・ 効果的な課題実施のため、他の国のプロジェクトとの連携が期待される。（例えば、他プロジェクトで構築されたデータベースを活用する、他プロジェクト等で実施されている内容を更に発展させる等。国のプロジェクトであれば、AI 戦略、元素戦略等に沿った取組や戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)等に採択されているプログラム等。)
 - ・ 「富岳」の機能・性能を有効に活用する計算機利用であること。特に Society 5.0 の実現に資する、新たな計算機の利用方法を重視する。（シミュレーションと AI の両方の手法を活用、リアルタイムデータの活用、Society 5.0 を想定した富岳の新しい利用形態（富岳クラウド等）等）

(2) 科学的又は技術的な意義及び優位性はあるか

- ・ 成果や実施に優れた科学的又は技術的な意義があること。
- ・ 目的や内容に優れた新規性・独創性、世界的に見た優位性があること。
- ・ 「富岳」の機能・性能を有効に活用する計算機利用であること。 等

(3) 計画の妥当性はあるか（技術的実現性、「富岳」を活用する必要性や計算資源の見積の妥当性含む）

- ・ 富岳がカバーしていない機能を前提にしていないこと。
- ・ 妥当な計算資源量の見積もりがなされていること（富岳における実行性能の予測やそれに基づく要求資源量の見積の妥当性について、根拠となる富岳実機における性能値の提出を必須とする）
- ・ 計算実施の準備が十分になされていること。
- ・ 利用計画が詳細に示され、妥当であること。 等

(4) 実施体制が整っているか

- ・ Society 5.0の実現には、個々の事象のシミュレーションにとどまらず、総合的なアプローチがもとめられることから、産学官の連携（コンソーシアム等）の取組を重視する。
- ・ 早期の社会実装を見据え、産業界の主体的な参画を前提としていること。
- ・ 社会実装を担う企業又は自治体等公的機関が必ず参画していること（企業について、個社か、コンソーシアムかは限定しない）。
- ・ 利用者は「富岳」の利用に向けて必要なスキルを保有していること。
- ・ 「富岳」での計算に向けた体制が整っていること。
- ・ 「富岳」での成果創出に向けて、関係者等が連携・協調した開発体制を構築できていること。 等

(5) 社会実装の道筋と実現可能性はあるか（継続的発展の見通し含む）

- ・ 課題開始から3年後の時点までに社会実装を目指すこととし、本審査申請時点で、社会実装にむけた明確な計画を策定していること（プレ審査時点においては、策定する見込みがあること）。
- ・ 課題実施期間の終了時まで、社会実装に向けた実証（小規模でのモデル的な実証を含む）まで到達できること。
- ・ 「社会実装にむけた明確な計画」において、社会実装を担う企業又は自治体等公的機関が特定され、その主体から社会実装の形態について何らかの形でコミットメントがあること（企業の事業計画等への反映、自治体等公的機関など公的機関によるガイドライン等への反映など）。 等

以上